

福祉サービス第三者評価結果報告書【令和6年度】

2024年11月7日

東京都福祉サービス評価推進機構
公益財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿

〒 170-0004

所在地 東京都豊島区北大塚2-24-5 ステーションフロントタワー2F

評価機関名 株式会社 地域計画連合

認証評価機関番号

機構 02 - 002

電話番号 03-5974-2021

代表者氏名 江田 隆三

以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①	菊池 匡	経営	H2201001
	②	岡本 京子	福祉	H2001054
	③	姫野 亜紀	経営	H0201025
	④			
	⑤			
	⑥			
福祉サービス種別	認可保育所			
評価対象事業所名称	西糀谷しろはと保育園			
事業所連絡先	〒	144-0034		
	所在地	東京都大田区西糀谷1丁目4番22号		
	TEL	03-3745-5165		
事業所代表者氏名	岳尾 幹子			
契約日	2024年	5月	1日	
利用者調査票配付日(実施日)	2024年	7月	5日	
利用者調査結果報告日	2024年	7月	29日	
自己評価の調査票配付日	2024年	7月	5日	
自己評価結果報告日	2024年	7月	29日	
訪問調査日	2024年	8月	5日	
評価合議日	2024年	8月	5日	
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	・事前説明にあたっては、令和6年度方式の評点基準、確認根拠資料の準備について、わかりやすい独自資料を用意し、事業者の負担を軽減する工夫を行っている。 ・分析シートは記入のポイントを用意し、効果的、効率的に情報が整理できるよう工夫を行っている。 ・確認根拠資料は、訪問調査の概ね3週間前までに評価機関への提出を依頼し、根拠の事前確認を行ったうえで訪問調査を実施し、訪問当日は事業所の課題や良い点を把握するためのヒアリングに重点を置いて実施している。 ・合議は、訪問調査終了後、同じ日のうちに、速やかに実施している。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。
本報告書の内容のうち、

- 機構が定める部分を公表することに同意します。
- 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
- 別添の理由書により、公表には同意しません。

〒144-0034 2024年11月5日
東京都大田区西糀谷1丁目4番22号

事業者代表者氏名

社会福祉法人 白鳩会
西糀谷しろはと保育園
理事長 栗本 広美

1	<p>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 子どもの人権を尊重し、健全な心身の発達と保持を保障する 2) 子どもの個性、人格を尊重し日々の保育の中で家庭とともに成長、発達を助けていく 3) 地域社会に開かれた施設として、時代に応じた福祉ニーズを把握し積極的に地域貢献する 4) 子ども社会の中で仲間づくりを目指し、さらに地域社会との交流を図りながら社会性を育てる 5) 遊びを通して心身共に健康な身体づくりをする
2	<p>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</p> <p>(1)職員に求めている人材像や役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員の資質向上を目指し、 ①子どもの発達に関する専門的な知識を高める。(個々の発達や年齢を考えた保育の取り組みをする) ②子どもの育ちを見通し、その成長・発達を援助する技術を身につける。 ③子どもの発達過程や意欲を踏まえ、子ども自らが考え行動しようとする。力を助ける知識や技術を身に付けていく。 <p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員の経験年数が高くなり、幅広い視野で保育を考えていくようになった。子どもにとって何が一番大切か”子どもの最善の利益”を念頭に保育に取り組むようにし、職員一人ひとりがチームで情報を共有しクラス運営を行うようにする。 ・保護者や地域の子育て家庭に対してもさらに支援の必要性を感じている。(ホームページを利用して支援を行っている)子どもを取り巻く環境や考え方が多角的になり、支援の難しさはあるが、研修を積み重ね保育の基本を大切にしながらレベルアップを図る。

調査対象

2024年7月5日現在の施設の利用者(保護者) 102世帯(利用者総数 127名)を対象とした。

調査方法

WEBアンケート。施設にて担任が保護者に手渡しする形で案内状を配付。保護者任意のデバイスにてアンケートに回答。

利用者総数	127
利用者家族総数(世帯)	102
共通評価項目による調査対象者数	102
共通評価項目による調査の有効回答者数	72
利用者家族総数に対する回答者割合(%)	70.6

利用者調査全体のコメント

総合満足度(大変満足、満足を合計した割合)は、(94%、68人)となっている。

●各設問のうち、「はい」の比率が高かった上位は、以下の項目であった。

問1. 園での活動は、お子さんの心身の発達に役立っていると思いますか
(100%、72人)

問2. 園での活動は、お子さんが興味や関心を持って行えるものになっていると思いますか
(97%、70人)

問9. 園内は清潔で整理された空間になっていると思いますか
(96%、69人)

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
	はい	どちらとも いいない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	72	0	0	0
<p>子供一人ひとりの成長度合いに合わせて、対応してくれていて、安心して預けられます。家では思いつかない遊びや、お友達との触れ合いを楽しんでいるようです。生活面でも遊びの面でも家庭では出来ないような色々なことを経験させていただいて感謝しています。などの意見があった。</p>				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	70	2	0	0
<p>先生の真似やお友達の真似をよくしているので、自身が興味を持っていて内容に関心があるのだと思います。といった意見があった。</p>				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	68	2	2	0
<p>体にいいもの。安心してお任せできます、ありがとうございます。 全て手作りで、栄養バランスを考えた献立になっていて、助かります。 家だと甘いお菓子を与えがちなので助かっています。 おやつも手作りでありがたく感じています。 などの意見があった。</p>				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	63	8	0	1
<p>年中さんになってから、公園へお散歩する機会が増えて、本人も喜んでいきます。 園庭やテラスで見つけた虫や鳥のことを覚えて、公園で遊ぶときに教えてくれたりしています。 昨年よりも公園に出かけることが増えて良かったです。 0歳児クラスから行事に参加させていただいたり、様々な経験をさせていただいています。 などの意見があった。</p>				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	56	12	3	1
<p>事前に相談した場合は対応いただいている。急な場合は経験が無い。 仕事で遅くなってしまうことを伝えたら快く預かってくれました。 などの意見があった。</p>				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	64	6	1	1
<p>避難訓練など、お迎え時に見たことがあります。とても、考えて職員が避難の行動や誘導をとっていたと感じました。送迎時のヘルメットも活用したり、個々に避難バッグがあったりと、安全対策をとっていると感じます。 といった意見があった。</p>				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	61	9	2	0
<p>結構前からお知らせしてくれるので、対応しやすいです。 面談や保育参観も希望日程を事前に聞いてくださり、行事も参加しやすい金曜の夕方や土日などに設定いただき助かっています。 土曜日の保護者会に保育をしていただき、父母ともに参加できるのは大変ありがたいです。 などの意見があった。</p>				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	63	9	0	0
<p>送り迎えの時に相談できるので、とても助かっています。 担任の先生がとても話しやすいです。 先生方はプロフェッショナルだなと感じる方が多く、とても信頼しています。 いつもとても親身に相談に乗っていただき助かります。 などの意見があった。</p>				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	69	1	1	1
<p>毎日お掃除してくれていて、清潔感があります。 整理整頓清掃はいつも行き届いていると思います。 いつも、キレイだと感じます。 などの意見があった。</p>				
10. 職員の接遇・態度は適切か	67	3	1	1
<p>どの職員も送迎時には、声をかけていただき、人間味の温かい職員が多いと感じます。 といった意見があった。</p>				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	64	5	2	1
<p>看護師さんが先生方と連携をしてとても的確に対応してくださっています。 子どもが原因のケガをしてもすぐに連絡をくださり、病院に連れて行ってくれ、その後の経過も気にして下さり、とても安心して預けられています。体調不良の時も連絡もスムーズで信頼しています。 配慮していただいて、日々感謝しております。 などの意見があった。</p>				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	59	12	0	1
<p>特記すべき意見なし。</p>				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	68	3	0	1
<p>子供の特性や個々の性格や発達状況をよく見て保育いただいていると思います。子どもが進級時は不安定な時期が続きましたが、とても根気強く子どもの不安にも寄り添っていただき、今は保育園大好きな状態になりました。 といった意見があった。</p>				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	63	6	1	2
<p>意見の記載なし。</p>				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	63	8	1	0
<p>毎日お迎えの時間帯に、子どもの様子や活動内容などを細かく共有して下さる。 個人面談時に細かく話していただいています。 などの意見があった。</p>				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	57	11	3	1
<p>不満や要望は今の所はありません。 といった意見があった。</p>				
17. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	43	25	3	1
<p>そのような状況になったことはありません。 あまり困っていません。 などの意見があった。</p>				

I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7)

No.	共通評価項目	
1	カテゴリ1	
	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリ1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況
		7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している	
	評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている
	○非該当	
●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている	
○非該当		
評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている		
評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている	
○非該当		
●あり ○なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している	
○非該当		
評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している		
評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている	
○非該当		
●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している	
○非該当		
●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている	
○非該当		
カテゴリ1の講評		
<p>多様な人々から成る社会との関わり方を園内や地域社会との交流を通じて伝えている</p> <p>園の目標や理念については職員や保護者の目につきやすい場所を選び、玄関、各クラス、廊下に掲示している。理念では人権の尊重、地域社会への貢献、国際性・バリアフリーを意識した、差別意識のない人材育成・設備の充実が掲げられており、園の人権教育カリキュラムにも友達や命、高齢者、障害者、外国人などのテーマを設け、社会との関わり方を伝えている。年度初めの職員会議においては園長より職員に事業計画の説明を行い、保護者に対してはオリエンテーションや面談時、保護者会、配付物にて理念・園目標を説明している。</p> <p>経営層が年度の運営の構想を立て、運営方針として明示している</p> <p>法人が目指しているところや東京都や大田区の考えを取り入れて策定した年次事業計画書に運営方針、保育運営、地域社会との連携、リスクマネジメント等を具体的な取り組み課題について記している。今年度の運営方針では、保育士の多様な働き方の推進、東京都のゼロエミッション化に向けた省エネ設備の導入(空調設備、LEDなど)によるCO2の削減への取り組み、木育事業の継続により、木や森林など自然への理解の促進、安全対策の知識向上、第三者評価受審、子育て支援や地域会議、小中学校との交流等の方針が明示されている。</p> <p>園として関係者に説明の責任を果たし、運営の透明性を保つように努めている</p> <p>園長より法人に園の出来事について月次報告書を提出している。予算や園の運営など重要な案件については、職員の意向を確認しながら、法人の理事会に諮り組織としての方向性を見出している。理事会の承認を受けた後、内容により職員会議や昼礼で決定事項について全職員に伝えるようにしている。また、年度初めの保護者会にて保護者にも重要案件について説明をしている。玄関の待ち合わせスペースに財務状況に係る報告書を公開しており、事業計画書もホームページに掲載している。園として説明の責任を果たし、運営の透明性を保つように努めている。</p>		

カテゴリ2		
2 事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行		
サブカテゴリ1(2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(○○○○○○)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	○非該当
サブカテゴリ2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(○○○)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	○非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(○○)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○非該当
カテゴリ2の講評		
<p>保護者アンケートや職員ヒアリング、少人数会議により運営・保育の課題を抽出している</p> <p>保護者会、保育参観等保護者参加の行事の実施後、アプリを活用してオンラインベースでアンケートを取り、保護者の意見や感想を取りまとめ、保護者からの意見に対し回答している。また、年度末に利用者アンケートを取り、1年を振り返っての保護者のニーズの把握やそれに対する意見については職員と検討し回答している。園内に対しては職員会議やリーダー会、クラス打ち合わせ、職員へのヒアリングなどチームや個人単位で意見を把握し改善を図っている。職員が主体的に意見を出せるようにできるだけ少人数での会議を実施するなどの工夫をしている。</p> <p>業界紙購読や区からの連絡、各種会議にて情報を収集し、最新動向に対応している</p> <p>保育通信や民保協、保育界などの業界紙や外部研修等の機会、大田区からのメールを通じて情報を収集している。東京都の「すくわくプログラム」にも園として事業を提案している。地域の園長会にて制度の変化や必要な手続き、書類についても説明があった場合、すぐに園の運営に取り入れている。地域会議には大田区特別出張所関係者、民生委員や自治会、児童館などが集まり、最近では太田区立児童相談所の新設に向けた動向や水害などの防災対策、虐待防止や対応について情報交換や議論をしている。</p> <p>園独自の中長期計画に基づいて単年度事業計画を策定し、定期的に見直している。</p> <p>中長期5か年計画を基に単年度計画を立てながら進捗状況を確認している。昨年度のように新型コロナウイルス感染症の類型が途中5類に移行するなどの社会状況や園を取り巻く環境の変化により、計画を適宜見直し、新たな課題を見つけ計画に反映している。近年では、コロナ禍を踏まえた保育内容の発展的な見直し、温暖化に対応する設備や保育内容・方法の改善、社会問題となっている不適切な保育への対応、待機児童の減少などの社会情勢を踏まえ、中長期計画を改訂しており、単年度の事業計画にて対策を具体化している。</p>		

カテゴリ-3		
3 経営における社会的責任		
サブカテゴリ-1(3-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるよう取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。	○非該当
サブカテゴリ-2(3-2)		
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	○非該当
●あり ○なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	○非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	○非該当
●あり ○なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	○非該当

サブカテゴリ-3(3-3)

地域の福祉に役立つ取り組みを行っている

サブカテゴリ毎の
標準項目実施状況

5/5

評価項目1

透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる

評点(〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	○非該当

評価項目2

地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている

評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	○非該当

カテゴリ-3の講評

職員の規範意識を高め、人権に配慮した教育を実践している

法人や園のマニュアルを基に守るべき法や規範意識、個人の尊厳などを職員に説明をしている。本園の業務マニュアルでは、園の理念・基本方針・目標に続き、「子どもや親の人権を守る専門集団として人権が何よりも尊重される保育」との認識に基づき、人権に配慮した保育方針を打ち出し、仲間や高齢者、障害者、外国人等を思いやる人権教育の年間計画を策定している。利用者権利擁護規程を整備し、自己評価シートや年度当初のマニュアルを用いて日常保育における子どもの人権について読み合わせをしたり、職員の人権に対する意識を高めている。

園児や保護者の権利を擁護する体制を整え、さまざまな仕組みを構築している

子どもの尊重や人権擁護の観点から全国保育士会のチェックリストを活用し、日常保育の振り返りを行っている。また、日常保育の中で職員の間になる言動を見たら必ず声掛けをして確認するようにしている。園内(玄関)には重要事項説明書やオンブズマン制度の下、第三者委員の氏名や電話番号についても掲示している。利用者からの意見や要望については速やかに対応するようにし昼礼や職員会議で職員に周知する。気になる傷や虐待の疑いがある場合、園長に報告し保護者と懇談をしたり、必要に応じて子ども家庭センターとの連携を取っている。

育児の専門機関として、地域の子育て支援や情報公開・交流に取り組んでいる

育児の専門機関としての力を地域に発揮できるように、地域子育て支援として、緊急一時保育、年末保育、子育て相談、園庭開放、親子の育児支援(よちよちタイム)などの事業を行っている。これらの事業はすべてホームページで紹介されており、利用の仕方や費用まで丁寧に分かりやすく説明されている。さらに、事業計画、第三者評価結果、財務状況に加え、園関係の最新情報や活動状況をホームページに掲載し、地域の福祉施設や自治会、大田区とも定期的な情報交換や情報共有をし、開かれた保育園となるよう取り組んでいる。

カテゴリ4		
4	リスクマネジメント	
サブカテゴリ1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○非該当
●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	○非該当
●あり ○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○非該当
サブカテゴリ2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している	○非該当
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○非該当
カテゴリ4の講評		
<p>日頃から自然災害に備え、最新情報入手し、職員とともに安全対策に取り組んでいる</p> <p>各地で大きな災害が発生していることから、地震や津波、台風や水害などの自然災害に備えたBCPを策定し、常に最新の災害情報入手するようにしている。園内でチームを組んで園内研修を行うとともに、専門機関に依頼し職員全員で危機管理研修を受けるなど、様々な災害対策方法・知識を取得している。毎月の避難訓練では実際の災害を想定し訓練のテーマを変更しながら取り組んでいる。昨年度の園内研修を踏まえ、災害マネジメントグループが中心となり、園の各階に事務用品や指示カード等を格納したファーストミッションボックスを設置している。</p> <p>年次安全計画を策定し、事故や不測の事態に対するリスク管理を徹底している</p> <p>職員会議にて危機管理について意見を出し合うとともに、職員が主体的に考え動けるように、大田区防災危機管理課や防災士、消防署・警察と協力しながら危機管理の訓練や研修の機会を確保している。また、独自の安全計画を策定し、保護者に説明するとともに、毎月のお便りにて園の対策について伝えている。園の安全計画は安全管理、児童への安全教育(災害安全、生活安全、交通安全)、保護者への説明、研修・講習、地域との連携など項目ごとに各月の計画を網羅した一覧表となっており、リスク管理への高い意識・配慮が窺える内容となっている。</p> <p>アプリやWebにて情報を共有する一方、情報管理、個人情報の保護を徹底している</p> <p>保護者に対しては保護者会での説明に加え、アプリにて園だより等を配信している。園のホームページには動画に加え、イベントの報告や案内などが写真付きで適宜更新されている。一方、園では個人情報管理規定を定め、職員、実習生、ボランティアなど保育にかかわるすべての職員が個人情報保護、退職後も適用される守秘義務を含む誓約書を記入し遵守している。事務所と各クラスにあるPCにはユーザーごとにパスワードを設定し、職位や職種に応じてアクセス権限を設けている。個人情報が含まれたデータは外付け媒体に保存し、鍵付き書庫に格納している。</p>		

カテゴリ-5		
5	職員と組織の能力向上	
サブカテゴリ-1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 12/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	○非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	○非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる 評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	○非該当
●あり ○なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	○非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる 評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	○非該当
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	○非該当

サブカテゴリ-2(5-2)

組織力の向上に取り組んでいる

サブカテゴリ毎の
標準項目実施状況

3/3

評価項目1

組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる

評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	○非該当

カテゴリ-5の講評

各種の研修やタスク業務を通じ、職員の質の向上に取り組んでいる

個別の研修計画を策定し、キャリアアップ研修や常勤・非常勤を問わず職員が希望する研修に参加できるようにしている。研修に参加した職員は会議で報告したうえ、一人ひとり研修録・振り返りの記録を作成している。長期的な育成のため、職員にキャリアアップ研修の受講を勧める一方、園内研修では虐待防止も兼ね、子どもに有効な声掛けや誘い言葉を集め、保護者にも共有するといったユニークな取り組みもしている。研修や意見聴取、タスク業務等にて鍛錬を積み、職員調査結果からも園運営や保育に対し高い意識を持った職員が多い印象を受ける。

職員間の協力の下、職員のライフステージに応じて勤務を継続している職員も多い

本園では、妊娠出産や家庭の事情に応じて、常勤職員から非常勤職員に変わるなどの働き方を選びながら勤務を継続している職員も少なくない。また、子育て世代の職員が多く仕事を一人で抱え込むことがないように経営層より声がけをしたり、業務の実施に支障が無いよう昼礼で子どもの様子や状況を共有し適宜応援に入れるようにフリーの立場で勤務する常勤・非常勤の職員が複数名いる。職員調査では人間関係が良い、働きやすい職場であるとするコメントが複数あり、東京都からも「働きやすい職場宣言事業所」の認定を受けている。

子どもと向き合う時間を増やすため、さらなる業務改善や職員間の協力体制を促進したい

職員が健康や体調管理をしながら仕事を進めるように声掛けするなど職員の健康や家庭事情にも配慮している。現状、園内では個別対応が必要な子どもが多くなっているが必要な園児には必要な手をかけるようにしている。就業状況は、有給休暇表や公休表をもとに職員の勤務状況を把握しており、毎月の超過勤務表を確認し不要な残業の解消など無理、無駄な働き方にならないように指導をしている。園の公休が増加している中、職員が子どもと向き合う必要な時間を確保するため、さらなる業務改善や職員間の協力の工夫が求められている。

カテゴリー7

7 事業所の重要課題に対する組織的な活動

サブカテゴリー1(7-1)

事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている

評価項目1

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

【課題・目標】

・安全計画に基づいた職員の危機管理意識の向上を図る。

【取り組み】

・危機管理チームとして、園内研修の中で安全について、毎月行ってきた避難訓練の見直しを行い内容の充実を図った。避難訓練の時間帯を変化させたことで保護者も一緒に避難訓練に参加できるようにした。

・保護者の防災意識を高めるために、大田区危機管理課と協力して防災についての講義を開催した。

・糞谷地区の防災について、自治会や行政、福祉施設など地域の社会資源の把握や行政の考え方、協力体制について情報を共有する機会を設けた。

・救命救急資格取得講座を受講した。

【取り組みの結果】

・安全対策についての職員の意識が高まった。

・無線機や携帯電話・発電器、さらには乳児突然死症候群(SIDS)対策として午睡チェックセンサーなど安全性を高める機材についても幅広く検討した。

【振り返り(検証)・今後の方向性】

・具体的なリスクをイメージし専門機関と連携しながら園児や保護者のさらなる防災や安全に対する意識向上を図る。

<p>目標の設定と 取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ○ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ○ 具体的な目標が設定されていなかった
<p>取り組みの検証</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ○ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行ってなかった(目標設定を行ってなかった場合も含む) ○ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
<p>検証結果の反映</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ○ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ○ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

新型コロナウイルス対策、子どものバス送迎事故、不適切な保育など子どもにかかわるニュースが大きな社会的問題になりさらなる保育園の安全対策の見直しが求められる中、安全計画に基づいて職員の危機管理意識の向上を図ることを重点目標として設定した。避難訓練や専門機関と連携した研修・講演の機会などを保護者とも共有し、地域とも防災のための協力体制の確認を行った。結果、安全対策についての職員の意識が高まり、安全性を高める機材の導入についても前向きに検討された。園内では計画を作成し、目標を立て、反省会をもって改善を導き出す取り組みが定着しており、本取り組みについても実施の教訓を踏まえ、園児や保護者のさらなる防災や安全に対する意識向上を図る段階に至ることとなった。このように本園ではPDCAのサイクルに沿って一連の業務が遂行されている。

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

【課題・目標】

・職員の資質の向上のための計画的な研修の実施、研修への参加

【取り組み】

- ・キャリアアップ研修への計画的な参加を促進した。
- ・安全対策チーム、地域支援チーム、食育チーム、乳児保育チームがそれぞれ主催する園内研修を行った。
- ・園全体で実施している研修、また支援児への指導方法を学び考察することで、子どもへの声掛けや指導方法の改善を図った。
- ・保護者会では日中の様子を動画や写真などを利用して園のねらいや子どもの発達や日常の子どもの様子を詳しく伝えた。

【取り組みの結果】

・上記の研修や保護者会での保護者対応状況から職員の資質が向上したと認識されている。

【振り返り(検証)・今後の方向性】

- ・さらに職員の質の向上を目指していくために、園内の研修時間を確保するためのクラス間の協力体制を深め、他のクラスを見学する案など園全体で検討し改善を図る。
- ・支援の必要な子どもへの対応が難しいため、研修の開催を通じて専門家や専門施設からアドバイスを受けるといった連携を図る。

目標の設定と取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ● 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ○ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ○ 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	<ul style="list-style-type: none"> ● 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ○ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) ○ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	<ul style="list-style-type: none"> ● 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ○ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ○ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

職員の質の向上については園の最も重要な課題に位置付けられており、保育力の向上のため、常勤・非常勤を問わず、各種の園内外の研修の機会を設けている。このため、計画的な研修の実施、研修への参加を目標として掲げ、キャリアアップ研修への計画的な参加を促進や安全対策チーム、地域支援チーム、食育チーム、乳児保育チームがそれぞれ主催する園内研修の実施、支援児への指導方法の改善、保護者会での園のねらいや子どもの発達や日常の子どもの様子について説明するなど様々な学びや実践の機会を確保した。上記の研修参加により知識や支援スキルの向上等保育力等職員の資質の向上をもたらす効果があったと認識されている。保護者会の保護者対応から職員のレベルアップを感じ取ることができ、保護者の感想を見ても良い感想が多かった。取り組みの反省を踏まえ、園内での研修時間を確保するためのクラス間の協力体制を深め、他のクラスを見学する案など園全体で検討し改善を図る、支援の必要な子どもへの対応が難しいため、研修の開催を通じて専門家や専門施設からアドバイスを受けるといった考察が導き出されているため、PDCAは機能していると見受けられる。

II サービス提供のプロセス項目(カテゴリ6-1~3、6-5~6)

No.	共通評価項目	
	サブカテゴリ1	
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
	評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇〇)</p>	
	評価	標準項目
	◎あり ○なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している
	◎あり ○なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている
	◎あり ○なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している
	◎あり ○なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の見学があった場合には、個別の状況に応じて対応している
	サブカテゴリ1の講評	
	<p>ホームページやパンフレットで園の概要等の情報をわかりやすく提供している</p> <p>ホームページ上には、入園案内や募集要項・見学会の日程・準備物・延長保育料・緊急一時保育・利用定員・利用期間等を掲載し園が実施する情報が入手できる掲載となっている。また重要事項説明の他手遊びやばくばく便り(毎月の献立・食中毒について・おやつ役割・レシピ等)の掲載も行い地域子育て支援を行っている。外部掲示板やパンフレット、動画等で園の理念・方針・目標・活動内容及び保育内容をわかりやすく説明している。</p> <p>各関係機関と連携し、子育て支援や地域向け活動の提供を行っている</p> <p>行政には運営上必要な在園児数や苦情・意見・質問等知らせ、必要に応じ担当課から指導を受けると共に、地域小学校(3校)・町会・嘱託医・児童館等にしろはとだより・保健だより等を郵送し連携を図っている。よちよちタイム(地域子育て支援事業)では、ボランティアによるベビーマッサージや手遊び・年間計画表を掲載し、パネルシアターやサマーコンサート・バランスボール・焼き芋会・クリスマスコンサート等の内容で計画し園の行事への参加も呼び掛けている。毎年地域の方が多数参加するという実績を残し地域に根ざした保育園となっている。</p> <p>利用希望者の問い合わせや園見学については、年間計画を立て情報発信を行っている</p> <p>園見学については、平日と土曜日に実施し、時間は9時40分から30分程度・1日6名の受け入れを基本として園長または主任が対応にあたっている。ホームページ上に入園受付開始の時期までの期間の日程と内容を掲載している。受付は電話で行い、保護者の事情に沿って日時の調整も行っている。また希望により、見学後の行事への参加も呼び掛けている。見学時は保育園の日常や子どもの姿・発達・保育者との関わり等の説明を行い丁寧に案内をしている。多く聞かれる質問は入園後の慣れ保育や発熱時のお迎え・連絡帳について等である。</p>	

サブカテゴリー2		
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 6/6
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇)</p>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している	○非該当
●あり ○なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	○非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇)</p>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している	○非該当
●あり ○なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている	○非該当
サブカテゴリー2の講評		
<p>サービスの開始前には、重要事項説明やガイドブックに沿って説明を行っている</p> <p>4月入園の決定は、1月下旬から2月上旬にかけ区から受け取る内定通知に基づいている。定員に空きがある場合は、2次・3次と随時通知が来る。内定後は保護者より連絡が入り入園に必要な書類を取りに来て頂く。2月中に園長・保育者・看護師・栄養士による面談が行われ、既往歴やアレルギー食の聞き取りを行っている。3月上旬の平日午後には園医による健康診断を実施し保護者の事情により直接病院を受診して頂くケースもある。4月初日に、オリエンテーションを行い園のガイドブックに沿って説明し保護者の同意を得ている。</p> <p>子どもの保育に必要な情報は、新入園児面談で把握し定められた書式に記録している</p> <p>新入園児面談では、保育をする上で必要な情報を入手している。(食事の形態・保護者の勤務状況・保育時間等)入手した情報は、児童調査票や面談記録票・慣れ保育予定表に記録している。0歳児や1歳児については、栄養士による食事の種類や刻み等特徴を聞き取り、家庭の状況に配慮しながら給食に反映している。看護師による聞き取りは、既往歴や健康上配慮する点・子どもの特性について等の情報を得ている。面談で得た情報は、3月中旬に行われる全員参加の職員会議の中で共有を図り、会議録は事務所に保管しその都度必要に応じて確認している。</p> <p>入園後は、子どもの不安解消に努め保護者と話し合いながら慣れ保育を行っている</p> <p>年度途中に定員に変更がなければ、0歳児12名・1歳児6名・2歳児6名・3歳児1名の25名の新入園児を受け入れている。入園後は子どもの不安を軽減するために、慣れ保育を行い保育時間については、保護者の状況(職場復帰の時期や家庭の事情等)に合わせ相談しながら進めている。また慣れ保育期間中にお迎え時間より早めに来て頂き、保育室で食事を保護者に食べさせてもらったり、一緒に遊んでもらう等一緒に過ごすことで、子どもの安心感に繋がるような取り組みを行っている。</p>		

評価項目1

定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している

評点(000)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	○非該当
●あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○非該当

評価項目2

全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している

評点(00000)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、保育の過程を踏まえて作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	○非該当
●あり ○なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直しをしている	○非該当

評価項目3

子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している

評点(00)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○非該当

評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄る等話し合う機会を設けている	○非該当
サブカテゴリ-3の講評		
<p>保育をする上で必要な情報は、定められた書式に記録し把握している</p> <p>0歳児・1歳児・2歳児は、連絡帳を使用し家庭の様子や保育園の様子を記入し保護者と共有している。0歳児は、24時間のサイクルで子どもの状態を把握している。連絡帳には、食事や睡眠・排せつ・家庭での姿等を記入し、元気に過ごせるよう努めている。3歳児以上は、ジッパー付きの袋を使用し検温表に健康面や変更・送迎時間等の記入をしている。年2回実施の健康診断(0歳児は毎月)や歯科検診の結果は、健康カードや個別児童票に記録している。個々の年間目標を立て心や体の成長を記録し保護者と共に成長の確認を行っている(すくすくプラン)</p> <p>全体的な計画を基に、年間・月間指導計画等を作成し定期的に見直しを行っている</p> <p>全体的な計画は、法人で作成したものに園の独自性(地域との連携・災害への対応等)を取り入れ作成している。4月の職員会議の中で職員間の共有を図り年度末に見直しを行っている。全体的な計画は、養護と教育・食育・健康支援・小学校との連携等の書式で作成され年間・月間計画の中に反映されている。年間指導計画は四半期ごと・月間指導計画は月ごとに反省・振り返りを行い、次月に繋げている。0歳児・1歳児・2歳児・支援児については、個別の指導計画を作成し、子どもの人権を守り尊重した保育実践を行うよう努めている。</p> <p>子どもや保護者に変化があった場合には、職員間で共有を行い子どもの理解に努めている</p> <p>子どもや保護者に変化があった場合には、日々行っている屋礼や月1回の職員会議の中で、共有を図り参加していない職員は、会議録を見てサインをする仕組みがある。その上で必要に応じ個々に声をかけている。また日常の中での変化は、引継ぎ簿に詳細を記入し担任や当番職員で確認し申し送りをし、伝達漏れがないように工夫している。万が一伝達漏れがあった場合は、保護者に連絡を入れて子どもの様子や変化を丁寧に伝えるよう努めている。</p>		

サブカテゴリ-5		
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部和やりとりする必要が生じた場合には、保護者の同意を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている	○非該当
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	○非該当
サブカテゴリ-5の講評		
<p>子どもの人権やプライバシー・羞恥心に配慮した保育を行っている</p> <p>5歳児は、園での生活や姿等子どもを尊重した内容を、保育要録や就学支援シートに記録して小学校に持参し情報の共有を行い滑らかな連携を図っている。保育の中では、外部の目を避ける工夫や水遊びの着替え・シャワーの準備をする際には、子どものプライバシーを守るためパーテーションを使用したり男女に分ける取り組みを取り入れている。おむつ替えについても個々を尊重し他の子どもから見えない工夫を行っている。4・5歳児向けに看護師による健康教育を行い、体の仕組みや大事なところは触らせない・嫌だと言える事等の取り組みを行っている。</p> <p>日常の保育の中で、子ども一人ひとりを尊重した保育実践を積み重ねている</p> <p>子どもが遊びこめる環境構成に配慮し、子ども自身が玩具の出し入れや片付け・遊びを選ぶことができる保育を目指している。子どもの変化や生活リズムにより体調が大きく影響するので、朝夕の送迎時に保護者から得た情報を大事に受け止め、子どもを見守りながら気持ちを汲み取っている。けんかやトラブルがあった時には、双方の気持ちを聞き気持ちを受け止めた上で、納得できるような保育を行っている。言葉で表現できない0歳児・1歳児・2歳児については、保育者が代弁していきながら子どもの気持ちを受け止める保育実践を行っている。</p> <p>虐待防止・不適切保育については、研修に参加し受講内容を職員間で共有している</p> <p>人権教育年間計画に沿って(月のテーマやねらい・配慮等の項目で作成)保育を行い職員の意識向上を目指している。命の大切さや思いやり・障がい者への理解・私の気持ちと友達の気持ちのテーマに沿って考え、保育場面の中で配慮を行っている。虐待防止マニュアルを活用したり、専門研修等の受講後には、他の職員と共有できるように報告を行い情報の共有を図っている。また職員一人ひとりが不適切保育についてのチェックリストを用いた点検を行い、自身の保育の振り返りや気づきに繋がる取り組みをしている。</p>		

サブカテゴリ6		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	5/5
6	事業所業務の標準化		
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている		○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている		○非該当
●あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している		○非該当
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている		○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている		○非該当
サブカテゴリ6の講評			
<p>区のマニュアルや法人作成のマニュアル・園独自のマニュアル等を整備し活用している</p> <p>区の資料を基に各種マニュアル(業務マニュアル・危機管理マニュアル・保育園ガイドブック・虐待マニュアル等)を作成し、事務所の定められた場所に保管している。また保育の中で頻りに参考にしたい内容については、必要箇所を抜粋してクラス掲示を行っている。災害時の取り組みとして(ファースト・ミッション)園内で強化を図り不測の事態に備え準備を行っている。待機場所等の安全確認・保護者対応・生活の援助等をし、屋上やホール・事務所等の4か所に設置し、職員が同じ対応を行い二次災害を防ぐための仕組みを作っている。</p> <p>各種マニュアルを活用し必要に応じて見直し、サービスの提供を行っている</p> <p>感染症対策マニュアルに沿って、看護師指導の基、感染症や熱中症・事故の応急処置・AEDの使い方・エビペンの使い方・嘔吐物の処理方法等の訓練を実施し、保育に活用していき子どもの命を守る取り組みの実践を積み重ねている。各クラスの安全点検や手順書については、業務をしていく中で随時見直し改善を行っている。不審者マニュアルを見直し使いやすくするために、副主任を中心に危機管理グループで、随時見直しを行っている。</p> <p>サービスの向上を目指し、行事ごとや年度末に利用者アンケートを実施している</p> <p>保護者参加の行事後には、アンケートを取り感想や意見を保育や園運営の中に取り入れることができるか職員間で検討を行い、集計したものを保護者に結果報告している。また年度末には、利用者アンケートを依頼し園運営全般について意見や質問を受けている。その中で安全対策や避難訓練の様子がわかりにくいという意見に対して、保育の取り組み方を写真で伝えたり、職員が受けている研修内容を伝える等「保育の見える化」に努め改善していくという結果を、3月中に集約しスピーディーに保護者に返していく取り組みを行っている。</p>			

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリ-6-4)

		サブカテゴリ-4	
サービスの実施項目		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	36 / 36
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている		評点(〇〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
◎ あり ○ なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている	○ 非該当	
◎ あり ○ なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している	○ 非該当	
◎ あり ○ なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している	○ 非該当	
◎ あり ○ なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している	○ 非該当	
◎ あり ○ なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている	○ 非該当	
◎ あり ○ なし	6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している	○ 非該当	
評価項目1の講評			
<p>一人ひとりの子どもの全体的な姿を把握し、主体的な遊びができるよう工夫している</p> <p>子ども自らが楽しく遊べるよう、登園時の聞き取りや連絡帳を通して子どもの姿を把握し、配慮をしていき保育を行っている。0歳児・1歳児・2歳児は、緩やかな担当制をとりできるだけ同じ保育者が援助している。3歳児クラスの前半は幼さが残るので、発達や個を大事にするため2つのグループに分かれた少人数保育を行い子どもを丁寧に捉える保育をしている。環境構成は、子どもの発達や姿に合わせて玩具の入れ替え(種類・素材・数等)を行い、子ども自身が遊びを選び、主体的に遊び込める環境を整えていく保育実践を積み重ねている。</p> <p>特別な配慮が必要な子どもについては、集団生活の中で育ちあえるよう援助している</p> <p>支援の必要な子どもについては、個別の指導計画を立て子どもの理解に努めている。子どもの心理や関わり方については、巡回指導や心理士の園内研修を通して、具体的な子どもとの関わり方や特徴の把握・パニックになった時の支援方法等の指導を受け学びあっている。支援児にはできるだけ同じ保育者が関わりながら、子どもとの信頼関係が築けるような保育実践を重ねている。同じクラスの子ども達にも理解が得られるよう話し合いを行い、集団の中でお互い育ちあえるよう援助をしていき、集団に入れない時には子どもの安心できる環境で過ごしている。</p> <p>発達の中で生じるトラブルについては、双方の気持ちに寄り添った保育を行っている</p> <p>日常の中で子どもの心の育ちを援助するために、人権年間計画を作成し「思いやりの気持ち」や「私の気持ち友達の気持ち」等を考える力を養うために、子どもと話し合いの時間を設けている。子ども同士のトラブルについては、言葉で表現できない0歳児・1歳児・2歳児については、保育者が仲立ちとなりお互いの気持ちを代弁していき子どもを受け止めている。また幼児クラスは、双方の気持ちを考えてみる時間を作り、気持ちの折り合いがつけられるよう見守りお互いが納得できるよう援助している。</p>			

2 評価項目2 子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	○ 非該当
● あり ○ なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	○ 非該当
評価項目2の講評		
<p>登降園の際には、保護者との会話や連絡帳を通して子どもの姿や変化を把握している 朝の受け入れ時には、子どもの顔色や動き・表情を観察したり口頭で保護者から家庭の様子を聞くようにしている。0歳児・1歳児・2歳児については、連絡帳で子どもの姿を把握し担任間で共有を図っている。幼児クラスは、個人持ちのファイルがあり検温表を基に生活の変化や健康面等を把握している。また当番者からは引継ぎ簿に記載されている内容を担任に伝えていき、継続して子どもの姿を把握できる仕組みができています。</p> <p>基本的な生活習慣の自立に向け、保護者と連携し無理なく進めている 基本的な生活習慣の自立に向けては、保護者から聞き取った内容や連絡帳から子どもの様子を把握しホワイトボードの個々のスペースに書き込み、担任間で共有している。排せつに関しては、午睡後に成功することが多く便器に座ってみることから始めるので、子どもに無理をさせないよう援助している。午睡に関しては体を休める時間と捉え、家庭のリズムを把握していき、眠れない子は横になって静かに過ごしたり別の部屋で対応することもある。早く起きた子どもは、2階の広いロビーやテラスで過ごす等、子どもの姿に沿った配慮や工夫を行っている。</p> <p>降園時には、1日の様子を口頭や引き継ぎ簿を確認し直接伝えている 降園の際には、口頭で1日の様子やエピソード・子どものつぶやき・友達と関わる姿等を保護者に伝えている。保護者の事情によっては、担任と顔を合わせる時間が少ない方もいるので、連絡帳で子どもの姿をわかりやすく伝えたり、幼児クラスはクラス別の活動メール(毎日配信)やドキュメンテーション(月3回から4回)で写真や言葉を沿えてお知らせしていき、保育の見える化に取り組んでいる。</p>		

3 評価項目3 日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している		評点(〇〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉(発声や喃語を含む)や表情、身振り等による応答的なやり取りを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	○ 非該当
● あり ○ なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	○ 非該当
● あり ○ なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	○ 非該当
● あり ○ なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気づき、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	○ 非該当
評価項目3の講評		
<p>子どもが主体的に遊べるよう環境構成を工夫している 子どもが安心して遊べるよう遊び毎のコーナーを設定し、それぞれのコーナーが充実し物や人を通して交われるよう工夫している。また子どもの興味や関心に沿って玩具の入れ替えを行い、魅力的な空間になるよう努めている。体育遊びもホールや身近な2階のロビーを利用し設定を変えて遊び場を選べるよう配慮している。鉄棒やマット平均台などを組み合わせ、遊びに変化と工夫を取り入れている。造形(月1回)・体育遊び(週1回)・英語(週1回)は、専門講師による保育を行ったり年3回職員指導を受け、楽しく遊べる工夫を行っている。</p> <p>子ども一人ひとりが、言葉による表現ができるように保育を展開している 子ども一人ひとりが、自分の気持ちを言葉で表現できるような援助を心がけ、子どもの行動や発声・喃語等については、保育者が場面を捉え言葉で伝えている。成長と共に語彙数も増えてくるので、子どもと応答的に関わる中で、気持ちにあった言葉の使い方や表現できるように援助している。子どもの生活が、リズム遊びや運動遊び・表現遊び・造形遊び等を体験しながら豊かになるように、環境構成の充実に取り組んでいる。緩やかな担当制をとったり、少人数や自然な異年齢交流を実践する中で、言葉で表現できるように配慮しながら保育を展開している。</p> <p>戸外遊びを積極的に行い、身近な自然に触れ季節を感じる保育を行っている 園庭遊びや公園等の戸外遊びの中で、公園には保護者と一緒に作ったバードコール(鳥笛)を持参して出かけ、わくわく楽しめる活動を取り入れている。身近に季節が感じられるよう配慮していき、花や木・草・風・空等の自然に触れる遊びを実践している。また木の素材に触れ、手触りや匂いを嗅ぎながら遊ぶ経験も取り入れている。5歳児は、畑にサツマイモの苗を植え、草引きや成長の過程を楽しみながらお世話をしていき収穫を楽しんでいる。収穫したサツマイモを味わってみる体験を通して、土や虫に触れながら季節を感じる保育を実践している。</p>		

4 評価項目4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○非該当
評価項目4の講評		
<p>子どもの興味や関心を捉え、子ども自らが進んで行事に取り組めるよう工夫している</p> <p>行事に向けては、子どもと話し合う中でイメージを膨らませ友達と一緒に考え意見を出し合いながら取り組んでいる。夏まつりでは年長が中心となりアクセサリーやお面・輪投げの景品を製作し、クラスごとのうちわ製作も、子どもの意見が反映されたものになっている。園内にはちょうちんを飾り、園庭では盆踊りをしている。おみこしは、子どもが製作し午前中に4・5歳児が園外を練り歩く活動で1日を通して開催され、保護者や卒園児・地域の方も参加している。子どもと話し合いながら行事を展開し意欲的に参加できる活動に取り組んでいる。</p> <p>皆で協力して色々な行事を行い、達成感や喜びが感じられるように保育している</p> <p>運動会の行事に向けては、日常取り入れている運動遊びや体育遊び等を通して、子どもの得意な種目を取り入れて開催している。保護者が参加することでより一層期待や喜びが増したり、声援を受けることで子どもが力を出し切る行事となっている。入場門作りも子どもがグループで意見を出し合い、皆で協力して製作に取り組んでいる。1つ1つの行事を通し自分たちで考えて取り組んだという達成感や喜びを大事にする保育を行っている。</p> <p>保護者の理解や協力が得られるよう、事前に丁寧なお知らせをしている</p> <p>年間行事予定は、4月に保護者に知らせていき、毎月発行の「しろはとだより」や「クラスだより」を電子媒体で配信している。クラスだよりの中で、子どもが取り組んでいる姿や子どもから出た意見や会話等掲載している。行事後にはアンケートを依頼し出された意見については、職員間で共有し改善が必要と考える点については、検討をした上で次回の行事に反映させている。集約したものはタイムリーに保護者に返している。保育内容を丁寧に知らせていく事で、保護者との信頼関係を築いていき行事への理解が得られるように努めている。</p>		
5 評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	○非該当
評価項目5の講評		
<p>長時間保育の子どもが、安心して過ごせるように配慮している</p> <p>長時間年間保育計画を基に、子どもが安心して過ごせるように配慮を行っている。4歳児室を延長保育室として使用しているため、床にクッションマットを敷きくつろげるスペースを設定したり、1日の疲れが出る時間帯なので安全保育を第一に考えて室内の環境を整えている。また遊びがマンネリ化しないよう考慮し特別感が出るように延長用の玩具を準備している。延長用の玩具については、その都度玩具を見直し(延長保育専任の保育者により)を行っている。いつも同じ保育者がいることで子どもの心の安定を図り、安心して過ごせるような保育を行っている。</p> <p>合同保育に移行する時間帯も、楽しく過ごせる工夫をしている</p> <p>クラス保育から遅番や延長保育に移行する時間帯も、子どもの姿や年齢に合わせた配慮を行っている。0歳児が延長に入る時には、不安を抱かないよう慣れている0歳児室でミルクや捕食を食べた後に、他の部屋に移るよう子どもの気持ちを尊重して保育している。当日の子ども数によっては、安全を一番に考え子ども数が増えるまで部屋を分けて過ごし、ゆったりと楽しめるよう工夫している。また毎日同じ職員(延長保育専任)が配置されている事で子どもが安心して過ごせる環境で、遊びを継続することができる保育を行っている。</p>		

6 評価項目6 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	○非該当
●あり ○なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	○非該当
●あり ○なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 保護者や地域の多様な関係者との連携及び協働のもとで、食に関する取り組みを行っている	○非該当
評価項目6の講評		
<p>喫食状況の把握や味付けに工夫を凝らし、美味しく食べられるようにしている 0歳児クラスは、テーブルチェアや椅子に座り体を整え、職員1名と子ども3名で、安心して食事できるよう配慮している。喫食状況や食材の刻み・好物等を把握していき、手掴みや食具に触れ1人ひとりにあった食事の援助を行っている。1歳児・2歳児についても、緩やかな担当制の中で担当の保育者が傍について安心して食べている。幼児クラスは、活動に合わせて時間をずらしたり3歳児は待たせない食事に配慮していき、食事のルールを守り美味しく食べている。毎月実施している給食会議の中で食べ具合・味付け等を話し合い次月に反映している</p> <p>アレルギー食の提供については、細心の注意を払い誤食防止を行っている アレルギー食の提供については、医師の指示書を基に食事を作っている。毎月保護者や栄養士・園長・担任で次月の献立表のチェックを行い、アレルギー面談記録に記入している。除去食は栄養士から保育者が受け取り、子どもの元に届くまではダブルで3回のチェックを行い提供している。2階のクラスには栄養士がクラスまで届け担任とのチェックを行っている。更にトレーを使い他の子どもにもわかりやすく話していき、細心の注意を払いながら誤食防止に努めている。</p> <p>ホームページ上にお便りを掲載し情報を提供したり、子どもの食育活動に取り組んでいる ホームページ上に、毎月のおたより「パクパクだより」を連載し、食の由来やレシピ・食中毒の予防等を載せ知らせている。また二次元コードを添付しているので読み取り動画を見てレシピの確認ができるようにしている。食育活動では、5歳児が区の農園を借りてサツマイモを育て、お世話をしながら収穫までの成長を楽しみにしている。収穫後は、乾燥させてイモ洗い等の手伝いをしていき、焼き芋は園庭で実施して、美味しく味わっている。子どもが育てた夏野菜や玉ねぎの皮むき等の活動を取り入れ、食に関する興味や関心を育てている。</p>		
7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている	○非該当
評価項目7の講評		
<p>年間保健計画に沿って、子どもが安全や健康に関心が持てるように援助している 年間保健計画(各月の予定・目標・計画・留意点・健康教育・職員指導等)を基に、子どもの健康の維持管理や職員向けの指導を行っている。日々クラスの巡回を行い変化に気づいたり、発熱の対応等を行っている。幼児クラスを中心に健康についての話をし(熱中症や歯科衛生士による歯の話・プールの約束・手洗いの仕方や咳エチケット・命の話・プライベートゾーン等)子どもに伝わるように絵本を用いて進めていき、子どもが安全や健康について関心が持てるよう援助を行っている。</p> <p>嘱託医による健康診断の実施や、各関係機関と連携を図り健康管理に努めている 嘱託医による定期健康診断は、内科健診と歯科検診を春と秋の年2回実施している。健診後に医師より受けた内容については、保護者に伝えていき場合によっては受診後の経過を確認している。毎月全園児の身体計測を実施していき子どもの成長を見守り記録は児童票に行っている。保護者より感染症や病気の潜伏期間等の質問を受けた場合は、丁寧に説明を行い知らせるとともに、感染症については嘱託医と連携し情報の共有を図っている。</p> <p>SIDSの予防や感染症の情報等は、随時保護者に周知し注意喚起を行っている 0歳児クラスは、今年度よりSIDS(乳幼児突然死症候群)の予防に向け胎動チェックセンサーを導入し活用している。従来通りの睡眠チェック表も使用し、午睡中の室温や湿度・明るさ・顔色・呼吸・体位等の確認(0歳児5分・1歳児と2歳児10分・幼児クラス30分)も行いながら子どもの健康や安全確認を行っている。入園時の保護者説明の中でも詳細に伝えていくが体位については、うつぶせ寝にしないよう仰向けで寝る習慣をつけてほしいと伝えている。体調の変化や怪我の際には、写真を撮り保護者に電子媒体でお知らせして対応を行っている。</p>		

8 評価項目8

保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている

評点(〇〇〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	○非該当

評価項目8の講評

保護者の就労状況や、個々の事情に応じた支援を行っている

長時間保育を利用している方が多く、保護者の事情も様々となっている。急な残業や交通機関の乱れ・家庭の事情で遅くなる場合は、電話で受け付け対応を行っている。延長保育の利用は、毎月15日から20日の間に翌月分の受付を行い、延長に空きがあった場合には17時までに申し込むことができる。18時15分から19時15分までの利用は補食を出し、19時15分から20時15分までは、希望する方には食事の提供もを行っている。急な対応については、保護者と相談をしていき補食の提供にも応じている。

保護者会では保護者が懇談する時間を設けたり、個人面談を通して信頼関係を築いている

各クラス年2回の保護者会を予定している。保護者会の内容は、担任より子どもの成長発達について伝えたり、保護者同士がグループで懇談する時間を設け、同じ年齢の子どもを持つ親として、育児の悩みや関わり方のヒント等を懇談し自身の育児について参考にしてもらえたり、保護者同士の繋がりをねらいとしている。個人面談も予定が組まれているが、随時相談の申し入れがあれば事務室や相談室を利用して、保護者に寄り添った対応を行い、共に子どもの成長を見守り信頼関係を築いている。

園からの各種お便りを通して、園理解や子どもの理解につながる取り組みを行っている

「しろはとだより」「クラスだより」「ばくばくだより」等の各種お便りは、電子媒体で配信を行い園での子どもの活動の姿や行事に向けて、取り組む様子を発信している。幼児クラスはドキュメンテーション(写真や文章で子どもの姿を紹介する)を月3回から4回配信して、わかりやすく保護者に伝わるよう努めている。また0歳児・1歳児・2歳児は連絡帳で日中の姿を丁寧に伝えたり、幼児クラスは毎日活動メールを配信していき、園理解や子どもの理解に繋がる取り組みを行っている。

9 評価項目9

地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている

評点(〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	○非該当
●あり ○なし	2. 園の行事に地域の方の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	○非該当

評価項目9の講評

地域資源を活用し、子どもの興味や関心を広げる体験を行っている

年1回警察官による防犯訓練や消防士による避難訓練の指導や職員向けの消火訓練を行い、子どもに向けての指導を行っている。「よちよちタイム」では、予約制で6月より園見学と行事セットの見学を予定してホームページ上に掲載している。行事は7月と9月に10時半から地域ボランティアによるパネルシアターを計画する等、地域の方の協力を受け実施している。また体育遊びは、専門講師を招き指導を受ける等、様々な地域の方と関わりながら子どもの興味や関心を広げる体験を積み重ねている。

地域の方や小・中学校・3園交流を実施し保育を積み重ねている

小学生の職場体験や中学生を授業の一環で園に受け入れ、一緒に遊んでもらう体験を行っている。近隣3園の年長児が交流していく遊びの体験を、継続して実践している。5月に各園より5歳担任が集まり年間計画を作成していき、行事の見せあいやドッジボール(年7回)・園を順番に訪問して交流する・公園で一緒に遊ぶ等の体験を行っている。地域の方を園に招き(夏祭りやボランティア等)子どもが職員以外の人と交流する場を設け、子どもの生活がより豊かになるような取り組みを行っている。

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-4-3	日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している
タイトル①	木育を通じて子どもの自然や環境に対する関心を高めている	
内容①	自然への興味関心を広げるために年長の幼児を対象に木育活動を取り入れ、保護者とともに世界のCO2の講演を聴講したり、森や木に触れる機会を持つようにしている。内装は壁や床などに木材をふんだんに使い、清潔で温かみのある空間となっている。色々な木に触れて匂いを嗅いだり、木製の積み木おもちゃを使った遊びを取り入れ、木製のスプーン・箸・パードコール(鳥笛)作りをしている。制作したものは家庭で使用したり、パードコールを持って散歩に出かけるなど、子どもの表現や発想が豊かになるような取り組みをしている。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	3-1-1	社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる
タイトル②	人権の尊重を理念に掲げ、子どもを尊重する保育を基本に据え、人権教育を推進している	
内容②	園は人権の尊重を理念に掲げ、利用者権利擁護規程を定めるなど「子どもを尊重する保育」を基本に据える中、園として人権教育の年間計画を策定し、高齢者や外国人、障がい者との実際の交流を通じ、園児の人権に対する理解を促進し、思いやりの心、命を大切にすることを育てている。職員に対しては昨今の不適切な保育が社会問題となっている中、人権に配慮したコミュニケーションの指導や定期的に権利擁護のセルフチェックを行っている。セルフチェック後、モニタリングを行い、職員の意識の変化・課題を確認するなど取り組みの効果の向上に期待したい。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	4-1-1	事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる
タイトル③	危機管理プロジェクトの下、防災への意識を高め、対策を実践している	
内容③	危機管理マニュアルを基に地震や津波・台風・水害等、近年の異常気象を踏まえ副主任を中心にプロジェクトで対応策を検討している。職員の意識向上に繋げるため、専門機関の講師を招き研修を全員で受講している。園内4か所には「ファースト・ミッション・ボックス」を設置し緊急時の対応に備えている。その中には、発電機や放送機器の使い方・待機場所の確認・避難の必需品・無線の使い方・職員の役割等の手順書が入っている。危機に直面した際に、落ち着いて行動し子どもの命を守るため、対応できる準備を整えている。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	園の行事や親子で楽しめるプログラムを準備して、地域子育て支援に力を入れ取り組んでいる
	内容	地域の子育て家庭を支援するため、月曜日から土曜日までの10時から15時で園庭開放を行い、利用方法も予約なしで事務所に声をかけて遊ぶことができる。「よちよちタイム」も計画しており年間予定表をホームページ上でお知らせしている。ボランティアによるベビーマッサージやパネルシアター・バランスボール・園の行事へのお誘いという内容で計画し、主任が窓口となり支援を行っている。また手遊びやわらべ歌の動画もバーコードで読み込み視聴することができ視聴回数は300回という結果を残し、地域子育て支援に力を入れ取り組んでいる。
2	タイトル	保護者参加の行事の後や年度末の利用者アンケートを実施し、保護者の声を聴き園運営に反映している
	内容	保護者会や個人面談・夏祭り・運動会・卒園式等の行事の後には、アンケートを配布して保護者の声に耳を傾けている。また年度末には利用者アンケートの依頼も行い保護者の意見や要望を受け止めている。寄せられた意見や要望については、職員間で検討を重ね次年度の園運営に反映する取り組みを行っている。集約し検討された内容は、タイムリーに保護者に提示できる取り組みを行い、利用者アンケートは3月中に保護者に報告を行っている。子どもの育ちを保護者と共に見守り、より良い園運営ができるよう努めている。
3	タイトル	地域に開かれた園として、3園交流、地域小中学校との交流、地域機関との連携等地域との交流・連携に積極的に取り組んでいる
	内容	地域に開かれた園となることを理念に掲げ、近隣3園との交流を長年継続しており、年に数回は3園の園児が合同で遊ぶ機会を設けている。さらに、小学生の職場体験や中学生を園に受け入れ、一緒に遊んでもらったり、夏祭りやボランティアなどで地域の方を園に招き交流を図っている。さらに、事業計画、第三者評価結果、財務状況等園の情報や活動状況をホームページに掲載し、地域の福祉施設や自治会、大田区、民生委員と定期的な情報共有を行うなど地域との交流・連携に積極的に取り組んでいる。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	給食計画に基づき、様々な食育活動を展開し食事の楽しさや食材に触れ、興味や関心が持てる取り組みを行っている
	内容	当園は給食委託を行っているが、栄養士と密に連携を図り月の反省を踏まえ給食の提供を行っている。5歳児は、区の畑を借り「サツマイモ」を育てお世話しながら収穫を楽しんだり、子どもが夏野菜を育てる・玉ねぎの皮むきやおにぎり握り等の食育活動を行っている。また5歳児のリクエスト給食や魚をテーマとして焼く・煮る・味付け等の工夫を行い提供している。給食会議も毎月実施していき、子どもの食べ具合や味付け・残菜等園長・担任と共に把握し確認しているが、更なる取り組みとして、クッキング保育を取り入れる等の工夫に期待したい。
2	タイトル	研修後のモニタリング・フォローアップを重視し、研修報告書の内容を全体で検討する環境、仕組みを整えたい
	内容	個別の研修計画を策定し、キャリアアップ研修や常勤・非常勤を問わず職員が希望する研修に参加できるようにしている。研修に参加した職員は会議で報告したうえ、一人ひとり研修録・振り返りの記録を作成している。このような取り組みにより、計画書や報告書の内容から、職員個々の知識・スキルは向上していると考えられるが、職員調査結果では、研修したことが実践できないといったコメントもあり、研修後のモニタリング・フォローアップ体制を強化し、研修報告書の内容を全体で検討する環境、仕組みを整えたい。
3	タイトル	さまざまな時間帯や勤務形態で勤務する常勤・非常勤職員間のさらなる情報共有の促進を検討されたい
	内容	園は働きやすい職場宣言事業所に認定されており、園として多様な働き方を認めている。在職して結婚、出産を迎える職員や子育て中の職員が多くいる職場環境である。家庭事情に応じて、産後に復職したり、常勤から非常勤へと立場を変えて働く職員もいる。家庭事情に応じてさまざまな時間帯で働く職員のために昼礼にて情報共有するようにしているが、全員への情報伝達が課題となっており、情報共有の方法の工夫が求められている。隔月に職員全体が集まる会議は確保されているが、さらなる職員間の情報共有方法を検討されたい。